

はぐくみ

2024年の成長と自覚

安城中部小学校長 稲留 雄一

夏には子どもたちのにぎやかな声が響いていたプールに、カルガモが飛来して静かに羽を休めている姿を見かけます。寒い季節になると、子どもたちの登校を出迎えるように朝早くから、時には20羽を超えるカルガモがプールサイドで整列したり、ゆっくりと水面に浮かんだりします。大きなアオサギがとまっていて、びっくりすることもあります。通りがかった子どもたちに教えてあげると、早速背伸びをしてプールをのぞき込みます。何羽いるか数えることが朝の習慣のようになっている子もいます。穏やかな朝の時間が流れていきます。

能登半島地震発生という衝撃的なニュースで幕を開けた2024年もまもなく終了します。多くの尊い命が奪われ、いまだに避難生活を余儀なくされている方々もおみえになる現実には、胸を痛めるばかりです。一方で、パリオリンピック・パラリンピックでの感動や、大谷選手の大活躍など、様々なできごとがありました。

まもなく冬休みになります。この一年の出来事をご家庭で一緒に振り返っていただければと思います。その時に、「思ったこと」や「感じたこと」も合わせて語らせることで、子ども自身が自分の成長を「自覚」することつながると思います。この「自覚」が子どもの成長には最も大切なことだと思います。また、保護者の皆様も、そうした時間を共有し、子どもの話しぶりや考え方に触れることで、慌ただしい日常の中では気付きにくい子どもの成長をお感じになるのではないのでしょうか（「聞く」ではなく「聴く」「訊く」こともとても大切ですが、度が過ぎると尋問になってしまうのでご注意ください「はぐくみ10月号より」）。子どもはいつの間にか大きくなり、成長していきます。その時々を親としては丁寧に見取っていききたいものですね。わが子もいつの間にか大人になり、親になっていました。

新たな年の幕開けが近づいています。子どもたちにとって、そして私たち大人にとっても幸せな一年になりますよう、力を合わせていきましょう。

2025年もどうぞよろしく願いいたします。



人権週間12月4日～10日

12月2日に人権集会を行いました。校長先生から自分自身、自分の学級について振り返る問いかけがありました。そのあと、「男の子とカエル」のお話を聞き、男の子の行動についてどう思うか、全員で考えました。また6年生の代表の子が、校内ふれあい会議で学んだことや、劇を発表し、みんなでいじめられた子の悲しさを共有しました。

そして、この1週間には5年生の子たちによる人権に関する読み聞かせも行われました。話に耳を傾ける姿がどの学級にもありました。児童会主催のペアリーディングもあり、互いを思いやる温かい姿があふれていました。

